

飼料作物奨励品種選定試験

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

市販されている飼料用作物の種子について、どの品種が鳥取県の栽培環境に適したものであるかは、種苗会社の栽培データだけでは判断しづらい。そこで、農家に推奨する「奨励品種」を選定するための基礎資料とするために、飼料作物の中でも県内で栽培面積の多い飼料用トウモロコシについて、3か年の反復試験を行い、生育特性及び収量性について調査した。

(2) 情報・成果の要約

2015年度に3か年の反復試験が終了した飼料用トウモロコシ5品種のうち、早生品種のP1543、中晩生品種のスノーデントレオ、P2307が総合評価の平均点が標準品種を上回る成績であり、奨励品種選定会議においてスノーデントレオ、P2307が県奨励品種に選定された。

2 試験成果の概要

(1) 総合評価成績

2015年度に3か年の反復試験が終了した飼料用トウモロコシ5品種（P1543、KD580、Z-corn112、スノーデントレオ、P2307）のうち、P1543、スノーデントレオ、P2307が総合評価（収量性、子実割合、耐病害虫性及び耐倒伏性を数値化して評価）で、3か年の平均点が標準品種を上回り、スノーデントレオ、P2307は3か年の各年度全てで標準品種を上回る成績であり、安定した品種であると考えられる（表1）。

早晩性	系統品種名	2013年度	2014年度	2015年度	平均
早生	KD650(標準品種)	86	76		82.0
	34B39(標準品種)			84	
	P1543	86	90	84	86.7
	KD580	76	70	70	72.0
	Z-corn112	76	80	76	77.3
中晩生	P3470(標準品種)	76	68	70	71.3
	スノーデントレオ	82	82	78	80.6
	P2307	88	80	88	85.3

(2) 収量性

乾物収量、TDN収量ともにP1543、スノーデントレオ、P2307が標準品種を上回り、スノーデントレオ、P2307は標準品種を10%以上上回ったことから鳥取県の栽培環境に適した有望な品種であると考えられる。(図1, 2)。

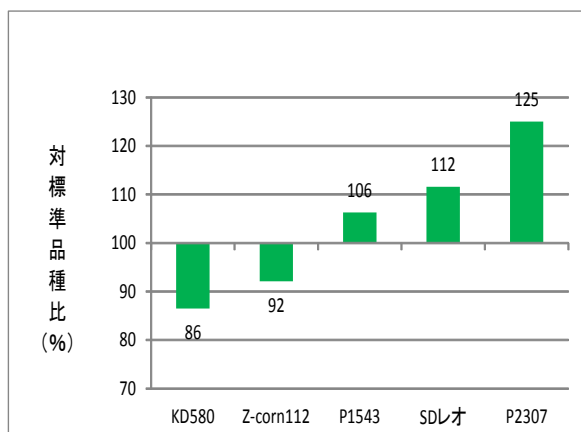


図1 乾物収量の対標準品種比

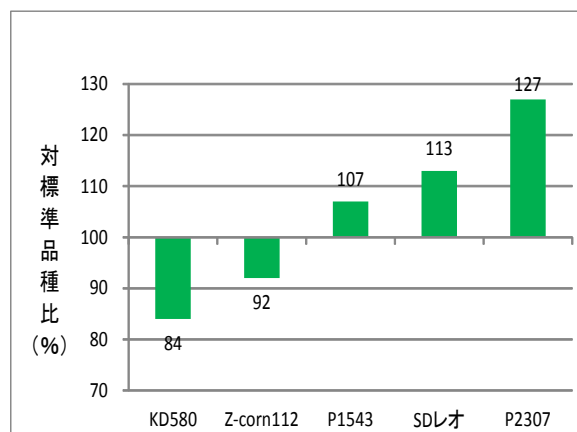


図2 TDN収量の対標準品種比

(3) 子実割合

「子実割合」とは、全乾物収量に占める子実部分の乾物収量の割合を示したものであり、この数値が大きいほど実の入りが良い、TDNの高いトウモロコシといえる。

P1543、スノーデントレオ、P2307が標準品種を上回った (図3)。

(4) 虫害率

「虫害率」とは、風による倒伏、折れではなくアワノメイガなどの害虫による折損の割合を示したものであり、この虫害率が低いほど害虫による折損が少なく、耐虫害に優れた品種ということになる。早生品種のKD580、Z-corn112、P1543が耐虫害性に優れていた (図4)。

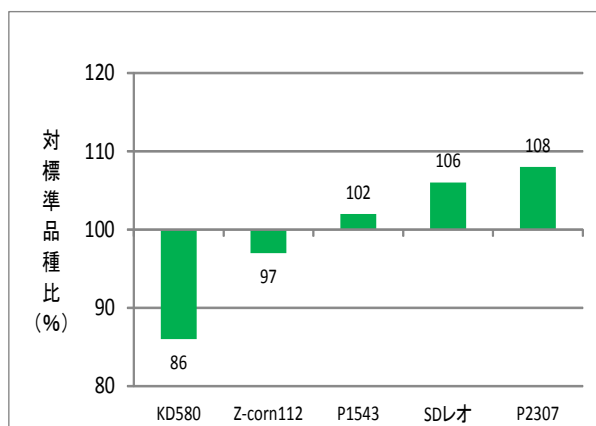


図3 子実割合の対標準品種比

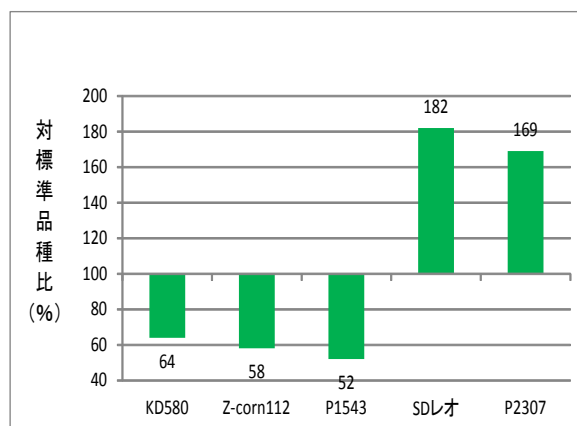


図4 虫害率の対標準品種比

3 利用上の留意点

試験圃場の土壌は黒ボク火山灰土壌であり、標高は40 mである。

4 試験担当者

(酪農・飼料研究室 主任研究員 庄野俊一)
室長 吉岡 勉*

*現 畜産課 課長補佐